

のへじ祇園まつり 野辺地西高 初の全校参加

若者パワー盛り上げた

安全な運営にも貢献

野辺地町の野辺地西高校(橋場保人校長)が、のへじ祇園まつり最終日の19日、初めて全校で山車合同運行に参加した。昨年までは希望者のみだったが、少子高齢化などで祭りの参加者が減っている現状を踏まえ、盛り上げるために全校参加に踏み切った。他の団体の山車が坂道で立ち往生したとき、生徒が応援に駆け付ける場面もあり、安全な祭り運営にも貢献した。(藤島文)



町内を練り歩く野辺地西高校の生徒たち

同校は昨年まで希望者100人ほどが参加。今年は今春のあったサッカー部と硬式野球部、田名部まつりに出るむつ市の生徒を除き、約170人で同校の山車を運行した。

山車飾りの「江戸町火消し 辰五郎」は、もの作りクラブの生徒と先生が制作。甲田龍丞部長(3年)は「工業の授業を取っているので制作はお手のもの」と話し、祇園囃子保存部の横濱美里部長(同)は「この日に向けて練習してきた。囃子のペースを一定にするようにみんなで気を付けている」と語り、沿道の観客にみやびやかな音色を披露した。

七戸町から通学している松山晋也さん(同)は山車を引き、「町の皆さんが協力して祭りを盛り上げようという気持ちを感じた」と言う。橋場校長は「町外の生徒にとっては高校時代の思い出の一つになる。全校参加が定着したら、引き手が少なく困っている運行団体に、生徒を派遣することも考えていきたい」と

話していた。